

Our Life 113号

内 容

- 共助とは？ 協力支援事業「焼津市港地域ささえあい講座」いよいよ開講！82名が和やかに議論……P.1
- 一福祉コミュニティ再構築と地域ぐるみの居場所を探る― 第1回共創社会研究会開催……P.2
- 本活動の軸である「地域の課題」を明らかにし、課題提起をする22年目の調査への想い……P.3
- 事務局日誌拝見 静岡福祉文化を考える会活動をご一緒にしませんか?? 編集後記……P.4

共助とはなにか？ 協力支援事業「焼津市港地域ささえあい講座」 いよいよ開講！82名が和やかに議論

● 実行委員メンバー23名とともに、市民主体の講座が誕生

本誌第112号でも紹介した「焼津市港地域ささえあい講座」がいよいよ9月2日に開講した。今回は、これからの地域を担う、若い世代の参画の必要性から、幅広く実行委員を呼びかけ、23名体制で実行委員会がスタート。開講までに2回の実行委員会を開催。これまでに、(1)地域の担い手は住民一人ひとりである、(2)若い世代がこれからの地域づくりに関心と参画をする呼びかけをすること、(3)「福祉」を楽しく学び合える学習環境づくりに努めること、(4)「わかる化」「見える化」する情報発信等を着眼項目に、住民主体の講座を目標とした。実行委員会は、今年度8回開催し講座を検証する。

本会では、講座運営支援と共に、地元焼津市の会員も講座に参加し盛り上げている。また、「若者発“居場所”あり方研究会」会員も実行委員の1人と加わり、精力的に大人社会と向き合う議論に参画。また、事前の「講座テキスト」作成をはじめ、毎回の参加者アンケート集計、ワークショップ成果物の資料化をはじめ、今年度、新しい試みとして、「港地域ささえあい講座通信」の編集・発行を担当している。

● 定員を上回る延べ64名の参加！！ 和やかな学習環境で居場所誕生

今日、こうした講座を定員確保で開催することが難しい時代。30名の定員も開講直前まで満たない状況であった。各実行委員の精力的な努力により、延べ64名が参加申し込みをした。文書やチラシを配るだけでは、真の理解までには及ばないことが、プロセスの中でも見えた。しっかりと伝えることの大切さ。

学んだ、第1回講座は、「地域を知る」「いろいろな人が暮らし合える一障がい者支援」「港地域ってどんな地域（ワークショップ）」のプログラムで和やかな3時間半は、時間が足りない前向きな意見多数。開会前と閉会前の「歌声喫茶」（アイスブレイク）も好評。具体的な地域の統計データも新鮮だとの意見が多くあった。参加者が身近な地域を語り合えた研修を「学び合える居場所」と捉えている人も…。



福祉コミュニティ再構築に向けた県民の意識と実態把握事業スタート！ 一ささえあう地域ぐるみの“居場所”づくりへの提言一に向けて 第1回共創社会研究会に10名の委員出席し議論深める

共創社会研究会の設置により、幅広い県民の意見を集約し課題提起をする

本会は、平成29年度活動に、「ふじのくに未来財団」「静岡県社会福祉協議会ふれあい基金」「あしたの日本を創る協会」から尊い助成支援をいただき「福祉コミュニティ再構築に向けた県民の意識と実態把握事業一ささえあう地域ぐるみの“居場所”づくりへの提言一」事業に取り組むことになった。より具体的に事業に取り組むため、各領域から10名の委員をお願いし、「共創社会研究会」を設置した。この研究会には、毎回、本会会員・役員も同席し、議論を深める。福祉コミュニティのあり方を問い質す機会を創りこれからの地域づくりに求められる「真の居場所」（地域で人々がささえあう）を問うとともに、「地域の担い手」を検証し、「いかにして、共創社会を実現していくか」を議論する。平成29年8月10日より平成30年3月31日までとし、4回（9/9, 11/11, 1/13, 3/10）「研究会の位置づけと方向性」「地域の現状、課題整理」「居場所に関する調査実施と検証／調査実施要項・調査個票・調査実施・調査結果考察」「実践6地区の検証」「公開型研修会結果考察」「事業全般考察（提言）」など研究討議を重ねていく。このたび、委員をお願いした方々は下記の通り。

共創社会研究会委員（順不同・敬称略）

No.	氏名	領域
1	石黒和子	沼津市社会福祉協議会
2	大澤佑介	静岡市社協・清水区地域福祉推進センター
3	松井洋治	掛川市社会福祉協議会
4	古川 久	居場所・ヌマツハラ県、Sルーム
5	石原孝之	居場所・カフェコラレ
6	西山美紀子	居場所・ほっとな居場所輪笑
7	佐藤春美	特定非営利活動法人風の家
8	池田貞夫	市民（健康生きがいづくりアドバイザー）
9	桑原信夫	市民（静岡市清水区由比寺尾自治会長）
10	江間彦之	市民（磐田市豊岡地区社会福祉協議会会長）



「第1回共創社会研究会」から、早くも深まる課題浮き彫り

第1回共創社会研究会は、平成29年9月9日（土）に、静岡県総合社会福祉会館で、15名が出席して開催した。今回は、今後議論が深まるように、(1)本事業の経過説明、(2)共創社会研究会の設置目的、(3)研究会委員相互理解（自己紹介）をもとに、本事業の位置づけを確認した。今後に向けて、さらに、本事業の主旨を理解していただき、委員相互の関係づくりを深め、本研究会に求めるべき項目を明確にしていく努力をする。第1回研究会から浮き彫りになった項目をあげると次の通りである。これらの項目を、今後さらに整理し深めていく。

- (1) 古くて新しい「居場所」論議 ノンマニュアルの取り組みの有無
- (2) 社会教育と社会福祉の「融合」
- (3) 多様なニーズがあって当たり前の社会
当事者による問題提起、共感者と共に、いかにコミュニティとの協働で解決できるか。
- (4) 排他的にしない、「集める居場所」から「集まる居場所」への努力
- (5) 福祉あつての防災、災害に強いコミュニティ組織は、「福祉」が中心、「地域を福祉化」
- (6) 市民の立場でいかに構築するか
専門家がコーディネートしていく時代を迎えているが専門性と市民性の「融合」によりいかにして「共助の時代」を再構築していくか
- (7) 非営利の福祉→生産性の福祉への発想の転換。これこそ、「福祉文化」の原点と実感

- (8) 若者の地域参加の消極的傾向へのアプローチ
- (9) 専門性と多様性を持つ様々な領域（包括、主婦、学生、施設職員、大学職員等）の組織化
誰もが地域の担い手、その中で地域が創られている。
- (10) 情報収集・提供のあり方
- (11) 公助ありきの社会環境になった。地域の自立の上に立った活動。
- (12) 自治会長とは（「任務の多様化」「継続事業の理解」「状況把握」「任期と一貫性」）
- (13) 居場所運営の財源確保（補助金・応能な負担・助成金活用）
- (14) 居場所運営の地域資源の開拓
- (15) 地域の連帯の必要性
- (16) 既存の居場所から、これから必要な居場所をつくる
- (17) 施設の社会化の視点（機能・運営・問題・処遇）
- (18) 社協、行政、自治会等との協働のあり方が問われている
- (19) 既存の考え方だけではない 制度を生み出す仕組みづくり
- (20) 対等な関係の居場所づくりと利用者主体の居場所環境整備
- (21) 近隣地域との連携
- (22) 地域リーダーとは（「資質の向上」「役割」「意識改革」）
- (23) 地域の診断と問題解決に向けて、地域性を活かした居場所の取り組みと仕組み（組織化）
- (24) 人財発掘
- (25) 若い世代の世帯が集まる居場所。若い世代の世帯が通える居場所を考える。
- (26) 地域社会が個人志向傾向にある。住民の意識改革の必要性。
- (27) 今の時代、運営からの経営感覚の保持が求められている。
- (28) 企業と地域社会（自治会）の共生＝企業の社会



●福祉コミュニティ再構築への提言に向けて 「居場所ってなに？ その意識と実態調査」のプロセスをもとに 意義ある調査研究活動展開になるようご協力を！！

「静岡福祉文化を考える会」は、この21年間、「静岡発 福祉文化の創造」を目指した実践活動の大きな柱立ての一つに、その時代の地域社会を取り巻く様々な福祉課題を「調査テーマ」にした「調査研究活動」に取り組み、その分析結果を、県内各方面での研修会や本会の公開型研修会などで公表し、世代を超えた「地域総合型学習」を通じて問題提起をし、県民一人ひとりの意識改革に努めてきた。いよいよ、今年度は助成事業として取り組み、結果をもとに県民に課題提起をする。福祉コミュニティ再構築に向けた県民の意識と実態把握事業一ささえあう地域ぐるみの“居場所”づくりへの提言一を課題として取り組む。

これからの福祉コミュニティの再構築のキーワードを「居場所」とし、「家庭機能」のあり方を問いつつ、「真の居場所」の開拓と共にその「地域の担い手」を検証する。静岡県内の10代以上の方々を対象に、年代・世代・領域等を考慮して、約1,000名程度の回収を目標に実施。調査実施期間（9月25日～10月25日）、回収期限（11月10日）、データ入力（9月30日～11月30日）、公表・報告（平成30年2月以降）を予定。

事務局日誌拝見 (8/26~9/25)

- 08/26 第 185 回委員会 助成決定に伴う、9 月以降の活動の具体化検討と「第 1 回共創社会研究会」の開催についての説明
- 08/27 助成事業に関する「報告書」作成について、印刷業者との協議
- 08/28 「共創社会研究会」委員の依頼に関する問い合わせ・協議
第 1 回共創社会研究会開催に向けた、各種資料及び準備資材等の作成作業開始
- 08/29 各種助成事業に関する事業費の運営管理について協議
- 08/30 静岡市表彰に関する連絡調整
- 08/31 共創社会研究会の委員承諾確認と第 1 回研究会旅費支払い準備作業
第 1 回共創社会研究会関連資料作成作業完了
- 09/01 第 2 回公開型研修会チラシ作成送付作業開始
- 09/02 第 1 回共創社会研究会の議事録作成に関する連絡調整
- 09/04 第 2 回公開型研修会に関するマスコミへの情報提供実施 (15 社)
- 09/05 ふじのくに未来財団へ近況報告実施
- 09/06 第 1 回共創社会研究会に関する連絡調整
- 09/07 第 1 回共創社会研究会に関するマスコミへの情報提供実施 (15 社)
- 09/08 第 2 回公開型研修会に関する関係方面への参加呼び掛け実施
第 2 回公開型研修会に関する参加呼び掛け (社協(35), 住民(50)) を文書で依頼
- 09/09 第 1 回共創社会研究会開催 (16 名中 1 名欠席)
- 09/10 第 1 回共創社会研究会議事録整理
- 09/11 ふじのくに未来財団へ近況報告実施 静岡市表彰に関する本会役員写真提出
- 09/12 当面の本会活動に関する連絡調整
- 09/13 第 2 回港地域ささえあい講座に関する資料作成作業 (~9/15)
- 09/14 Our Life 113 号編集作業実施 (~9/25)
- 09/15 「居場所ってなに? その意識と実態調査」個票作成作業 (~9/25)
- 09/16 第 2 回公開型研修会に関する参加呼び掛け実施
- 09/17 第 2 回公開型研修会に関する当日レシメ及び関連資料作成作業 (~9/24)
- 09/18 第 2 回公開型研修会に関するマスコミへの情報提供実施 (15 社)
- 09/19 第 1 回共創社会研究会に関する課題整理と第 2 回開催に向けた検討
- 09/20 第 2 回公開型研修会に関する連絡調整
- 09/22 第 3 回港地域ささえあい講座実行委員会開催
- 09/23 「居場所ってなに? その意識と実態調査」個票印刷作業実施 (2,000 枚)
- 09/25 「居場所ってなに? その意識と実態調査」個票発送作業実施
Our Life 113 号発送作業実施

●福祉文化実践活動をご一緒にしませんか??

「静岡福祉文化を考える会」は、阪神淡路大震災(1995)翌年度の平成 8 年 9 月 1 日に発足し、平成 28 年度に 21 年の節目を迎えました。平成 29 年度は新たな節目に向かい、「福祉文化の創造」に取り組んでまいります。

本会の活動基調は、「専門性と市民性の融合」「公開型地域総合学習の企画と実践」「課題解決に向けたプロセス重視」のもと、さまざまな分野で活動している会員が、身近に感じている地域社会全般の課題解決に向けて市民の視点で活動をしています。

◇ 会費：社会人 3,000 円 大学生以下 1,000 円

◇ 問い合わせ：420-0841 静岡市葵区上足洗 3-7-15-5
静岡福祉文化を考える会事務局 Tel & Fax: 054-246-1486

編集後記

「Our Life」(本会広報誌)の果たす役割は、本会活動を「見える化」し「わかる化」し、会員をつなぐ、地域をつなぐ、関係機関・団体への課題提起と、実に大きな位置づけになっていることを常に忘れないようにしていかなければならない。そうした意味合いから、今年度は、各種助成事業により、活動が展開されている内容や取り組んでいる過程における課題等を、しっかりと伝えていかなければならない。本号は、当初 10 月発行を予定していたが、「共創社会研究会」が始動し、調査活動も本格的に始まったため、9 月発行となった。